

氏 名：尾形 由貴子  
学 位 の 種 類：博士（看護学）  
学 位 記 番 号：甲第 203 号  
学位授与年月日：2021 年 3 月 10 日  
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当  
論 文 審 査 委 員：主査 小野 若菜子（聖路加国際大学准教授）  
副査 林 直子（聖路加国際大学教授）  
副査 鈴木 美穂（聖路加国際大学教授）  
副査 本田 順一（聖マリア病院副院長）

論 文 題 目： がん患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの実装

#### 博士論文審査結果

本研究は、S 施設で治療・ケアを受けているがん患者を対象に、当該施設のある自治体が開発し普及を図っている「一言日記帳」というアドバンス・ケア・プランニング（Advance care planning:以下、ACP）の媒体や手順書を用いてコミュニケーションを図り、患者自身が望む治療やケア、療養場所の選好が出来るための ACP プロセスを構築することを目的とした介入研究であった。

審査では、尾形氏より研究の概要説明が行われた後、主査、副査より下記の質問事項、指摘事項があった。

1. 研究設計が複雑であるため、わかりやすい記載を行うこと。研究方法や分析方法の具体的な記載、文体（誤記、改行、不明瞭な文言）、図表の正確な作成、本文と図表の整合性について再確認し、加筆・修正を行う。
2. 一言日記帳を使った ACP の効果は、どのように判断したのか。医療者の話し合いができた人、できなかった人を詳しく記述することで、今後の ACP の実装への具体策につながる。
3. 医療者と患者の属性も考慮して、結果を示すとよいのではないか。
4. 考察において、「一言日記帳を病棟に即したものに直す必要がある」と記されているが、どのように対応するか具体的に記載する。
5. ACP を実装する場合、患者の ACP の理解が求められるが、具体的な方法はあるのか。
6. ACP を効果的に進めるには患者の状況に応じて医師や多職種が関わるタイミングを

決めておく必要があると考察しているが、具体的にはどのようにしたらよいか。

7. ACP の実装に向けて何が必要か等、本研究の限界と今後の課題を記載する。

審査終了後、上記指摘事項について、担当教員、主査、副査は、修正論文と回答書を確認し、本論文を博士論文として承認した。本実装研究は、がん患者に対する ACP の病院への定着を目指したモデルとして評価される。病院内の ACP の実践を可視化し、質の高い ACP を提供する方法を導いた意義は大きい。今後、介入を継続し本実装研究を洗練し発展させていくこと、さらに、本研究成果の普及・啓発活動が期待される。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。